

博多便り
生徒当時に見えた福高と、福高教員の今見える母校
圧倒的な存在感を放つ学び舎の少しも変わらぬ素晴らしさ

樺崎仁(高57回)



他校の教員として何度も訪れてはいましたが、改めて福高の地に足を踏み入れると、福高の教員(理科・生物)としての責任感と重圧を感じました。圧倒的な存在感を放つ学び舎が、少しも変わらず目の前に現れたからです。

そのような感覚は、高校57回生として入学したときには、当然ながらありました。福高に身を置くことに心浮かれ、重厚な門扉、天を衝くフェニックス、どつしりと構えた石造りの校舎。

他校の教員として何度も訪れてはいましたが、改めて福高の地に足を踏み入れると、福高の教員(理科・生物)としての責任感と重圧を感じました。圧倒的な存在感を放つ学び舎が、少しも変わらず目の前に現れたからです。

今思えば当時の自分は、若気ばかりが先行し、人間的成熟には程遠い生徒だったことでしょう。そんな自分を成長させてくれたのは、福高の授業と部活動です。福高の授業といい授業は、「強烈」と評して差し支えないほど新鮮で、まるで「自分の殻を破れ」と迫ってくるようでした。当初、未熟な自分は自らの力を不足を認められず、授業から目を背けてしまいました。

しかし、腹を括つて勉強する、そう決めた瞬間から福高の教員としての責任と重圧は、福高の生徒であつたゆえに、感じられるのかもしれません。目の前にいる生徒たちの途方もない伸びしろと可



バスケットボール部でした。毎日自分の限界までボールを追いかけ、筋肉痛のおかげで駅の階段を這い登った記憶ばかりです。そんなきつい思いをしながら、しかし隣には必ず友人がいました。心技体を鍛え、今なお続く固い絆を結ぶことができました。大学生から社会人へと、私がわずかばかり成長できたのも、福高の授業と部活動おかげです。

福高の教員としての責任と重圧は、福高の生徒であつたゆえに、感じられるのかもしれません。目の前にいる生徒たちの途方もない伸びしろと可

りました。新会長の「明るい同窓会に」の思いを実践すべく、7月には伏見へ酒蔵見学と利き酒ツ

アーレを実施(写真)。月桂冠勤務の常任幹事・末信雄仁さん(高47回)が企画し、20～70歳代の幅広い世代が参加しました。

関西福中・福高同窓会は、毎年7月に開催される「明るい同窓会」を次々実践!!

関西福中・福高同窓会副会長 鈴木庸子(高20回)

このように、幅広い世代が共に楽しむことで、

関西福中・福高同窓会は、毎年7月に開催される「明るい同窓会」を次々実践!!

関西福中・福高同窓会副会長 鈴木庸子(高20回)

このように、幅広い世代が共に楽しむことで、

関西福中・福高同窓会副会長 鈴木庸子(高20回)